富山県図書館を考える会会報　No.51 富山県図書館を考える会20周年記念

講演会「時雨沢恵一、富山で喋ります！」報告

2013年3月2日（土）午後1時～3時　　富山県総合福祉会館サンシップとやま

この講演会の企画は、富山県図書館を考える会が、２０１０年に富山市内の中学校と高校の学校図書館に２００９年度の貸出冊数上位５タイトルを記入してもらうアンケート調査を行ったことから始まりました。その中で判明したのは、中学校と高校で共通して上位５タイトルに入っているのは、時雨沢恵一氏の著作である『キノの旅　The Beautiful World』 だということでした。そこで富山に来てもらったら、富山の中学生と高校生が１番喜んでくれるのは、時雨沢さんであることを私たちは知りました。

そして、時雨沢さんとアスキーメディアワークス編集社の方々のご好意を得て、２０１１年３月１９日に講演会の開催を計画したのです。ところが、その１週間あまり前の３月１１日に、日本は信じられないような大災害に見舞われました。そこで、この企画は１度中止になっています。ところが幸運なことに、富山に来ると時雨沢さんが再び言って下さったので、今回の開催となりました。

また今年は、富山県図書館を考える会設立２０年の年です。富山県図書館を考える会は２０年間ずっと、学校司書を応援をする活動を続けてきたと自負している団体です。けれども学校司書の本当の応援団は、図書室に来て、本を読み、本を調べ、本の話をしてくれる、学校図書館を利用する小学生、中学生、高校生の子どもたちなのです。ほとんどの学校司書は、子どもたちの笑顔を励みに仕事をされているからです。

私たちは結成２０年目に、子どもたちが１番好きな作家を招き、広がりをもった読書体験を楽しんでもらうことで、真実の学校図書館応援団に恩返しができたことをありがたく感じました。

開場の１２時３０分にはもう空席が
見当たらない状態でした。
小学生１８名
中学生５３名
高校生５６名
高校生以上１６９名が、
把握できた数です。

司会は雄峰高校3年生、長森健悟君。
冷静な対応と指示で、スタッフは多いに助けられました。

時雨沢さんの前で、富山市南部中学校１年生の永田瞳さんが、主人公のキノの知恵の深さと勇敢さに元気がもらえると話してくれました。また、富山東高校１年生の城くるみさんが「キノの旅」の物語の構成の確かさが夢中になる秘密と、作品の魅力を語ってくれました。

会場の皆さんも頷かれることが多く、作品を愛する者の共感の喜びが会場にあふれていたように思いました。

富山市立中央小学校の皆さんによる、「TOYAMAヤングセレクション賞」の金メダルとイラスト集の授与です。時雨沢さんに似合うメダルを作ろうと苦心されたそうです。その甲斐あって時雨沢さんはこの講演会の間ずっと、メダルを首にかけていてくれました。

この講演会の後も、時雨沢さんがツイッターで「富山でもらった手作りのメダルを壁に飾っている。メダルを見ながら仕事をしている」と発信され、写真もアップされています。

大事にして下さっている様子です。

時雨沢さんは「自分のことしか、しゃべれないから」と前置きされて、ドラエモンに夢中になり主人公を自分にした物語を作って楽しんでいた小学生時代から、ゲームやエヴァンゲリオンにもはまった中学生・高校生を経て、アメリカの大学で体験したことなどの延長線上に、作家になるという選択と、「キノの旅」の作品背景があると語られました。

時雨沢さんが小学校時代の話をすると会場の小学生が頷き、中学・高校生時代の話が出ると中学生と高校生に共感が広がり、大学から作家を目指したくだりでは大学生が喜ぶと言う感じで、会場に集まった人すべてに、丁寧にメッセージが伝わるお話でした。

この後、小中高校生が氏名を書いた紙を入れておいた抽選箱から、時雨沢さんに７枚を引いて名前を呼んでもらい、サイン入り色紙を当選者に手渡してもらいました。

そして、参加者が３００名を越えていたにもかかわらず、全員が時雨沢さんと握手をして、講演会はつつがなく終わりました。

握手を終えた後に涙ぐむ子も多勢いて、学校図書館と学校司書を支えてくれた子どもたちにちゃんと喜んでもらえたんだなと実感しました。

次は、講演後に各学校図書館のカウンターで集めてもらった、感想です。

〇『キノの旅』にこんなフレーズがあります。『世界は美しくなんかない。そしてそれ故に美しい』この世界は戦争をしている国がある、差別している国がある、自分たちの国では考えられない文化を持つ国がある。でもその国の人びとが皆この世界で同じ時を過ごしています。これは、本当はすごいことなのかもしれません。私はこの本を書いている時雨沢恵一さんは、いったいどのような人生を過ごしているのだろうと考えるようになりました。この講演会の話を聞いたとき、とてもうれしくて、必ず参加しようと思っていました。この講演会で時雨沢さんがどのような人生を歩んで、どのように考えていたかがわかったし、握手会で時雨沢さんを間近で見ることもできました。私はこのうれしい気持ちを一生忘れません。（高 2）

〇好きな作家さんに会え、キノができるまでの話が聞けて、嬉しかったです。時雨沢さんの今までの人生の話から、親近感がわきました。話を聞いた後に作品を読み直すと、話に出てきた箇所に出会ったり、新たな発見があったりとまた知って読める喜び、楽しみが増えました。ますます時雨沢さんが好きになり、これからも時雨沢さんの作品を読み続けていきたいです。（中１）

〇最初から最後までの時雨沢さんの話がおもしろかったです。生まれたときから作家になるまでの話を聞けてよかったです。なかでも、昔も今もアニメ・マンガ・ゲームが大好きだと知ってびっくりしました。また、昔ニートだったと聞いたので、将来ニートにならないようにしたいです。（小学生）

〇最初から最後までおもしろかったです。時雨沢さんの子供の頃から、作家になるまで、妄想して一人で遊んで、大人になっても信じられないようなこともしていたらしく、とてもおもしろい話を聞かせてもらい、とても感謝の気持ちでいっぱいです。もっと話が聞きたいなと思いました。（小学生）

〇私は、キノの旅はあまり知らなくて時雨沢さんに会いに行きました。でも、キノの旅が好きになりました。握手までしてくださってとてもうれしかったです。（小学生）

〇時雨沢さんと間近で話せてうれしかったし、お話を聞くのも楽しかったです。自分にとって最高の時間でした。（小学生）

〇時雨沢さんの話は、とてもおもしろかったです。今までの過去をたくさん話してくださり、前よりもっと時雨沢さんが好きになりました。（小学生）

〇おもしろい話をありがとうございました。「キノの旅」の時間を楽しみしています。（中２）

〇私は、時雨沢先生のお話を聴いて人生の経験というのはとても大切なんだなぁと思いました。「キノの旅」には時雨沢先生が経験してきたいろいろな事や物が登場したり、「学園キノ」では母校がモデルだったりして小説の中にも先生の経験がいっぱい詰まっていてびっくりしました。私は小学校の時に小説家になるのが夢でその頃に「キノの旅」を読んで私の中の小説家になろうという気持ちが強まったのを覚えています。中学生になった今も「キノの旅」やその他の時雨沢先生の物語が大好きで続きが楽しみでしかたありません。また機会があれば時雨沢先生の講演をぜひ聴きたいです。（中２）

〇作者様にお会いする機会なんてない！ので、すごく嬉しかった！（中２）

〇「キノの旅」のファンでした。生の作者に会えて嬉しかったです。おもしろい話ありがとうございました。（中２）
〇話はすごく楽しかったし、時雨沢さんと握手もできてうれしかった！！時雨沢さんの手はあたたかくて、やわらかくて若々しくてカッコよかった！講演会に行って本当に良かった♪（中学）

〇おもしろかった。作品にまつわるエピソードをもっと聞きたかった。（中学生）
〇質問タイムがもっと長ければ良かった。（中学生）

〇講演会のスタッフ、お疲れ様でした。とっても楽しい講演会でした。2011 年から２年たってやっと会えたという感じです。改めて、今回の講演会をもう一度やろうとしてくれた人たち時雨沢先生、司書の先生方にお礼を申し上げようと思います。有難うございました。（中２）

〇時雨沢さんの少年時代が僕に似ていると思った。話が聞けて本当に良かった。（中１）

〇おもしろかったです。改めて、小説っておもしろいし、すごいなと思った。（中２）

〇後書きがおもしろいだけあって、講演会も面白かったです。サイン色紙が７人にもあたるなんて時雨沢さんはとてもいい人なんだなと思いました（笑）サイン本を買えたので、毎日眺めています。こんなに楽しかった講演会の企画を考えて下さった皆様、時雨沢さん、ありがとうございました。（中２）

〇感動した。サイン色紙をもらえて、めちゃ嬉しかった。手があたたかかった。（中２）

〇時雨沢さんの少年の頃の話が聞けて嬉しかったし、おもしろかったです。握手をしてもらい感動しました。（中２）

〇時雨沢さんの今までの人生の出来事を面白く話してくださったので、とても楽しく聞くことができました。（中１）

〇将来、イラストレーターになりたいと思っているので、参考になりました。いろいろなことを経験することで、作品に広がりを持たせられるのだと思いました。（中２）

〇作品についての話をきけるとは思っていたけど、時雨沢氏ご自身の人生についての話を聞けるとは思ってもいなかった。（中学生）

〇作家になられるまでの紆余曲折を聞けて良かった。（中学生）

〇握手してもらったことが一番嬉しかった。（中学生）

スタッフ記念撮影
２０１１年に富山南高校で、阿倍梨沙さんと
河上章太郎さんが制作された等身大キノも大活躍

司書のいる学校図書館の風景　（特別編）

学校図書館を使った授業の様子を富山市の学校司書が伝えてくれました。

「読書好きにさせる本ってないかしら？」

事はこのレファレンスから始まった。以下はそこから展開された授業の報告です。

５年生１０名　〇月△日　４限

１：はじめのことば（担任）

２：読み聞かせ（司書）『おたすけこびと』（なかがわちひろ文　コヨセ・ジュンジ絵　徳間書店）
もとよりシャイな面々、反応はどうかと心配されたが、最初の読み聞かせの段階ですでにいい食いつきよう。「すげぇ！　かっこいい！」みんなの視線は車に釘付け。
最後に、本を広げて表紙絵をつないだ状態でみせて、「『おたすけこびと』でした。」で締めると、今まで車にだけ集まっていた視線が「こびと」に散らばる.

３：一人読み（机間巡視、司書・担任）
一人１冊、この本はどこどこ小学校から…、と紹介しながら本を手渡し、自由に読ませる。さっそく、こびとの数を数える子。落ち着き無くしきりとページを繰る子。じっくりと眺める子。５分程度で全員が最後のページまで一度はたどり着いたようなので次に進む。

４：ダウトをさがせ（司書）
「ダウトをさがせ」では質問者（司書）以上に絵を見ていて、安全ベルトをしているこびとは表紙絵だけかと思いきや、本文中にも見つけてくれ…。
６個の設問を用意していたが、もっと！とせがむので急遽「いちごのへたはついているか？」なんてのも追加。

５：ワークシート（机間巡視、担任・司書）
おおむね、ねらい通り、「ダウトをさがせ」で本をくまなく見ることで絵の細かいところにも関心がいき、こびとのおしゃべりを想像し、文章にする作業にうまくつながった。
時間が押していたので１０分程度しか時間を取れなかったが、子どもたちの心の中には文章にしていない「こびとの声」がたくさんあふれていたと思う。
それぞれ、好きなページのこびとの会話を書かせたが、同じページでも視点が違い、小さなこびとの動きをよく観察していた。

６：発表（担任）
担任の裁量で児童を指名し、実物投影機を使い、どのこびとのせりふかを示しながら発表させた。

７：本の紹介（司書）
この他の小学校図書室にあるじっくりと読める絵本を紹介。
『はちみついろのうま』『ルピナスさん』『てぶくろをかいに』『彼の手は語りつぐ』『ナツメグとまほうのスプーン』『かくれんぼジャクソン』

＜学習を終えて＞

本を読むときは「すぐに本文に入るのではなく表紙から順に楽しみ、扉にある文章も読み、表紙見開きからすでにお話が始まっている」事を知り、丁寧に読むことを実体験出来たと思う。
文字を知った時点で絵を読む力に封印をした子どもたちに再び絵を読む楽しさを思い出させ、「本を楽しむ」ことを学習した。これは「本を読む」楽しさが伝わるブックトークへとつながり、６年になってから実施した。

今回の授業は５年担任の「うちのクラスの子は本を読まない。読んでも絵本とか簡単なものばかり、何とかじっくりと読書に取り組める子になってほしい。」という相談から始まった。まず、担任の「簡単な本」という偏見を払拭するために起案段階で十分に話し合い、（立ち話だけど…）『おたすけこびと』を題材に絵本を読み込む楽しさに気づいてもらった。

授業においては児童をよく理解している担任が空気をうまく操作してくれたと思う。なんといっても、事前に同じ感動を共有していたので、教材に対して同じ目線で挑められた。人任せの授業ではなくＴ・Ｔでできたことが、よかった。

また、実物投影機も活躍した。しかし、現物を手にし、自由にこねくりまわすことで、どんなにたくさんのものを発見したか…。そのために、同じ本を１０冊用意し、一人に１冊手渡した。これは富山市内学校司書のネットワークの賜物であった。一クラス１０人と言う小規模校だからできたともいえるが、起案の時点で「司書は助け合える」という確信があったからこそである。学校図書館必携の本だったら、学校間が協力し合うことで４０冊も夢ではないと思う。

数年前の中川千尋さんの講演（富山市学校図書館司書研究会・部会講演）の中で「私の本はいい手（訳者）に渡った。私の本は私に終わらず、私から手渡したあなた（司書）に渡り、そこから読者（教師・児童）に渡りそこで完成します。」とあった言葉を思い出す。

司書が「おもしろい！」と本心から思ったその言葉と気持ちはちゃんと手渡す相手（教師）に渡り、こんどは、司書と教師が児童に手渡せたと思う。

このような試みは１度や２度で決して結果が出るものではない。今回は丸々１単位４５分もらったが、今後は５分でも１０分でもいいので、長さではなく回数でアプローチできるように働きかけたいと思う。（本の虫）

富山県教育委員会が、目指す教育のあり方を盛り込んだ「教育振興計画」への意見が募集をされたため、図書館の充実を求める提案を以下のようにしました。（抜粋）

計画の基本理念に「変化する社会に果敢にチャレンジし、生き抜いていく確かな力を育てる」とありますように、情報化が急激に進む現在、情報をすばやく入手し、その情報を自分で分析、判断し活用する能力の育成が緊急の課題となっております。その能力を教育課程の中で効率的に育んで行くためには学校図書館の充実が不可欠です。学校図書館は、学びたい意欲を喚起し、豊かな学習情報を知り、学んだことをいかす活動を支える、教育効果の高い大切な場所です。

新しい教育の流れを踏まえた基本計画にするために、「県内全ての学校の学校図書館の充実」を明記してください。また、「富山県教育会の誇り」と呼ばれた「正規職員の高校司書」を再び県立学校５５校（特別支援学校１２校を含む）全てへ配置を行うと明記してください。

「基本施策Ⅵ　生涯をとおした学びの推進―（２）県民の学習を支える基盤整備」に「（公共）図書館のレファレンス機能の充実」とあります。図書館には、長期間の職務経験がある司書がいなければ、レファレンスという専門的業務は行えません。図書館の仕事は、何十年にわたる業務の蓄積の上にあり、その蓄積を理解していなければ、現在の専門的な仕事はできないからです。「正規職員の司書の配置をさらに推進する」と明記してください。

射水市教育委員会は、第２次「子どもの読書生活充実プラン－楽しく読んで　たくんの本に出会おう－」を策定されました。

学校図書館の整備・充実のための今後の取組として、「司書教諭や学校図書館職員の資質向上のため研修や情報交換の場の提供に努めます」が明記されています。

滑川市教育委員会は、「滑川市子ども読書活動推進計画」を策定されました。

「子どもたちが読みたい本、知りたい情報を確実に手に入れるために、また教員が図書を活用した、より豊かな教育活動を行うためには、学校図書資料に精通した学校図書館司書の役割が大変重要です。このためできるだけ各校に専任の学校図書館司書が配置されることが望ましいと考えています。」と明記されています。

石川で「学校図書館の活用を検討する研究会」が設立されました。

北國新聞の４月２８日（日）の朝刊に「授業に学校図書館活用　教員有志ら研究会を設立」という記事が掲載されました。石川県内の国語や数学、英語、技術家庭など６教科の教員と司書が共同で授業の指導案を作成し、各学校に紹介活動を行われるそうです。来年の２月２５日に開催される『金沢に豊かな学校図書館を願うボランティアネットワーク』の交流会で事例報告される予定です。新しい動きの成果が聞けそうで、とても楽しみです。